

インターバンクの声（2014 年 10 月 23 日）

米経済指標の持続的な強い結果発表が途切れ始めている市場では、昨晚の消費者物価指数の発表に対してもやや弱めの予想をしながら待ち構えていたようだ。結果は小幅ながらも予想を上回り、ドルが主要通貨に対して強含みの展開となった。さらに、ユーロ相場は 26 日公表予定の欧州中央銀行（ECB）によるストレステストで少なくとも 11 の銀行が不合格となりそうだとスペインの通信社が伝えたことから値下がり幅が拡大した。ただドル円相場は、序盤こそ米長期金利が上昇傾向となったことから消費者物価指数の発表後も円売りが続いたが、カナダの首都で起きた「イスラム国」絡みとされる銃撃事件から安全資産として円が買い戻された。今日、明日と米住宅関連指標の発表もあるが、米金利引き上げまでの期間が確認できることになりそうな米連邦公開市場委員会までは、一定のレンジ内での上下動に終始しそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。